

着物柄見本のデータベース化と利用について

高野 航平

着物（和装）は日本文化の象徴のひとつであり、時代の変化に合わせて形を変えながらも近代まで受け継がれてきた。しかし、戦後洋裁技術や化学繊維が大量生産可能になったことなどを背景に急速に衰退した。この結果、生産量や売上だけでなく職人の数も減少し、技術や意匠の散逸が起こることとなった。

本研究の目的は、昭和 40 年前後に成立したとみられる綿抜研究室所蔵の友禅染めの柄見本図案 33 冊の特徴を明らかにすることと、デジタルでの利用方法を提言することである。

柄見本とは着物の製作・注文の際に用いられる、柄の比較・選択を行うための冊子体をした見本である。本研究では、この柄見本をデジタル化したうえでその図案を整理・分類と文様の分析を行うとともに、インターネット上での公開を前提にしたウェブサイトの製作、図案の具体的な利用の方法としてクロスステッチの刺繍図案化するプログラムの作成を行った。

分類に際しては、着物や文様に関する知識が無くても検索が行えるように、伝統的な文様をまとめた複数の辞典や図鑑を参考にしつつも、モチーフを中心にした階層分類を行った。この分類作業の結果、203 のモチーフが存在したものの、出現頻度上位 20 位までで出現頻度合計の 52.2%を占めているのに対し、出現頻度が 5 回未満の文様が 59.6%を占め、モチーフの使用頻度は非常に偏っており、多くのモチーフは僅かな出現にとどまっていることがわかった。また図案中に配されたモチーフの数は全体として少ない傾向にあり、72.5%が 1・2 個のモチーフにより構成されているが、10 以上のモチーフからなる図案も存在し柄見本によりばらつきがあった。

ウェブサイトは、Web アプリケーションフレームワーク Django を中心に製作を行った。このウェブサイトでは、モチーフ等からなる文様名による検索を行うことが出来る。検索範囲や条件を指定することで、該当する文様を含む図案を検索できるほか、個別の図案中に存在する全ての文様を確認することが出来る。刺繍図案化するプログラムについては、変換する画像と変換後の大きさ、変換方式を指定することで Excel ファイルとして出力する。変換した図案は色味、形状共に課題が残るものの、Excel ファイルの性質上修正は容易である。

今後の課題は、伝統的な文様とモチーフの呼称の関係性をウェブサイト内で示し検索でも使えるようにし、図案生成を高速化する等実用性を高めることである。また、作成したウェブサイトが現状ローカル環境でしか閲覧できないため、サーバに置いてインターネット上で公開することを検討している。

(指導教員 綿抜 豊昭)